❶聚花山の庭 しゅうかざんのにわ

池泉回遊式庭園で、昭和を代表する作庭家・重森三玲氏が手がけました。日本古来の伝統の中に、現代の斬新な感覚が盛り込まれた庭園です。

❷龍門の滝

聚花山の庭の深部にあり、滝を登る鯉の姿を表した添え石に水がとうとうと流れ落ちます。鯉が黄河上流の滝を登りきると龍になるという中国の故事にちなんでいます。

❸水車の庭

林泉の庭と聚花山の庭をつなぐように設えられた、古来からの池庭です。昭和59年の改築を、重森三玲氏の長男で作庭家の重森完途氏が手がけています。

❹池泉苑路

重森三玲氏の孫・重森千青氏が令和4年にデザイン・制作しました。平成年代に半べえで使われていた信楽焼の陶板や江戸期の瓦を使ったモダンで爽やかな作風が魅力です。

❺林泉の庭

約300年前の江戸時代中期に作られた林泉式庭園で、しっとりと落ち着いた趣があります。樹齢350年の楠のご神木と二つの滝があり、傍らの洞からは霊水「延命の水」が湧き出ています。

❻ご神木「幸せの木」

茶室の傍らに立つ樹齢350年の楠の老木。江戸期からこの地に根付き、庭園の守り神のように静かに佇んでいます。

❼延命の水

奥行き20mの横穴から湧き出る水は枯れることなく、昔から延命の水として尊ばれています。

緑と向き合う

花後の剪定や肥料
樹木の手入れ
庭師のまなざしが
隅々まで注がれます

ようこそ 半べえ庭園へ

春は桜、つつじ
水清き夏の花しょうぶ
燃えるような紅葉
冬の黒松
日本庭園の四季折々の風情を
お愉しみいただけます

❽茶室「紅霞亭」こうかてい

江戸時代後期に建てられた書院式の茶室で、金釘を使用せず木釘のみで手間ひまかけて作られています。秋に部屋から眺める紅葉が霞にかかっているように美しく見えるところから名付けられました。

❾茶室「聴松庵」ちょうしょうあん

平成7年建築の数寄屋造りの茶室です。「聴松庵」の名前は“松風を聴く”という言葉から付けられました。茶釜の湯気が、松が風に揺られているような音に聞こえてくることをいいます。

<灯籠>

半べえ庭園内には様々な形の石灯籠があります。

❿織部灯籠

茶室「紅霞亭」の露地にあり、竿に地蔵尊に似せたキリスト像の浮き彫りがあります。戦国時代の武将で茶人の古田織部が考案したため織部灯籠といわれます。

⓫琴柱灯籠 ことじとうろう

日本三大名園・兼六園の灯籠と同じもので、1/16サイズです。二股の竿が琴の糸を支える琴柱に似ていることからこの名があります。

⓬島

聚花山の庭の池の水中に石組みを立て、島に見立てています。不老不死の仙人が住むといわれる「蓬莱島」や長寿を表す「鶴島」「亀島」などを配しています。

⓭薬研大井戸

六角苑の手前の大井戸は東西南北の方向を示した字の断面がV字形の薬研彫となっています。薬研とは漢方薬を調合する際、生薬を粉に挽くために用いられた器具をいいます。

⓮座石

椅子のような形には美しい景色を座って眺めるという意味があります。ここからは林泉の庭を身近に味わうことができます。

⓯水琴窟

仏像を彫り込んだ四方仏の手水鉢の形式です。琴のような美しい音が響きます。